

中国と日本を結ぶ季刊誌

# かけはし

季刊 2018年夏号  
2018年7月20日発行（第3巻第1号）

**2018年全人代・政協**  
現場からの声・政協委員に聞く

**“ラジオは無くしてはならない”**  
BCL暦60年・細谷正夫さんに聞く

**2018さくら便り**

**放送局組織変更のお知らせ**

# かけはし

季刊 2018年夏号  
2018年7月20日発行(第3巻第1号)

## 目次

### お便り募集のお知らせ

「かけはし」では読者の皆様の投稿を受け付けております。番組や冊子の感想のほか、中国旅行の思い出、エピソードなどをお便り・Eメールでお寄せください。

あて先

E-mail: riyubusns@126.com

郵便(中国): 100040 中央広播電視総台日本語部「かけはし」編集部

- 01 組織変更のお知らせ
- 02 両会議取材2018 ……王洋  
現場からの声・政協委員に聞く
- 04 開放と革新のアジア 繁栄し発展する世界 ……李陽  
ボアオ・アジアフォーラム2018年年次総会
- 06 CRIインタビュー ……王小燕  
“ラジオは無くしてはならない”  
BCL歴60年・細谷正夫さんに聞く
- 08 和して同ぜず ……文化交流実行委員会  
書画展 東京で開催
- 09 CRI日本語放送・北京放送OB・OGは今 ……張国清  
張国清～ラジオ人生40年
- 10 百家姓物語 「趙」 ……張怡康
- 11 日本で実践!中国語 ……張怡康・梅田謙  
携帯ショップでの会話
- 12 北京暮らし ……劉叡琳  
北京の町巡り「天通苑」
- 13 あなたの知らない ……周莉  
パンダあれこれ
- 14 【特集】CRIさくら便り2018 ……王小燕・謝東  
“花は美しい”そう感じる心は中国も日本も同じ
- 18 中国エンタメ情報 ……関亦氷  
中国エンタメ情報/イチオシ!中国映画  
映画のキャッチコピーに学ぶ ほか
- 20 独占インタビュー ……朱丹陽  
岩井俊二監督に聞く
- 22 CRI日本語放送OB・李順然の寄稿文 ……李順然  
54年前の中国の旅
- 24 日本人スタッフのつぶやき ……星和明  
大学生日本語プレゼン大会
- 25 中日交流カフェ ……梅田謙・高橋恵子  
ようこそCRIへ!  
二人の日本人留学生、番組出演でCRIとの初めての出会い
- 26 新語で知る中国事情 ……謝東  
キーワードチャイナ
- 27 リスナーからのお便り
- 28 北京セルフィー日記2018  
カラフルな北京を探検!
- 27 番組リニューアルのお知らせ



表紙の写真

真夏、西山国家森林公园から眺めた北京。この眺望を楽しめるのは西側の特権だ。天气がいい日は天安門のさらに東、国貿の建物まではっきり見えて気持ちがいい。(撮影:劉叡)

### 「かけはし」編集委員会

発行人 王丹丹

編集人 趙雲莎

編集 梅田謙 森雅継

潘 圓 王 帥

### かけはし編集部

中国北京市石景山区石景山路甲16号

中央広播電視総台日本語部内

電話 +86 10 6889 1272

E-mail riyubu@cri.com.cn

URL japanese.cri.cn



# 放送局の組織変更についてのお知らせ

中国国際放送局 (CRI) は2018年3月21日より、中央電視总台 (CCTV)、中央人民ラジオ (CNR) と統合され、中央廣播電視总台 (チャイナ・メディア・グループ) として生まれ変わりました。

今回の改組は国務院機構改革の一環によるもので、国務院直属の事業組織としての新たなスタートを切りました。今後は、中央廣播電視总台傘下の中国国際放送局として、引き続き「中国立場、世界眼光、人類胸懐 (中国から、世界へ、人類のために)」の放送理念を貫き、皆さまに愛される放送を目指します。また、日本語放送においては当面はラジオ放送のコールサインでの「北京放送」という名称も使用を継続します。

今後も、CRI日本語放送および本誌『かけはし』をよろしくお願ひ申し上げます。



▲東門に“中央廣播電視总台魯谷弁公区”の看板が増設されました。

# 2018年中国人民政治協商会議

CPPCC2018

## 取材記者より

今年の政協の取材を担当した王洋です。世界的に注目される「两会議」を取材するのはこれで2回目、緊張と同時にわくわくする気持ちで臨みました。特に今年は、中日平和友好条約締結40周年という節目の年に当たるため、外交や文化についてのディスカッションにスポットを当てた取材を意識しました。今後の中日関係への展望や、両国間の文化交流促進のためのアドバイスを求めて、政協の委員たちを直撃！現場からの声を誌面でお届けします。



## 現場からの声・政協委員(対外友好界)に聞く

### 日本に最も望むのは政治上の信頼

日本側の明確で前向きな対中政策は、ポジティブなシグナルであると、私たちは考えています。先の会見(編注:3月8日の全国人民代表大会外相会見)で王毅外相が話したように、中国が日本に対して最も希望しているのは政治上の信頼です。それはつまり、約束を守り、揺らぐことなく、後退をせず、ぶり返したりしないということです。また、行動におけるルールとして言行を一致させ、中日間で達成した「互いに脅威になることなく、パートナーになる」という政治的共通認識を、口だけでなく実際の政策に反映させ、具体的な行動で示すということです。



孔鉉佑  
外務次官

### 今後も前向きなシグナルの発信を

『中日平和友好条約』の締結40周年に当たり、中日双方が歴史を振り返り、初心を忘れず、40年という基礎の上に両国新時代のさらなる一歩を踏み出す、良い機会が訪れています。我々は日本側が現在の基礎の上で、中国国民および世界に向けて前向きなシグナルを絶えず発することを望んでいます。双方が向き合って歩み寄り、外に向けて善意を発することさえすれば、双方の努力によって、中日関係の改善と発展という目標が必ず実現できると信じています。



## 青少年交流を通して、友好事業の後継者を育てる

民間交流は、中日関係の発展において大切な役割を果たしてきました。我々は、今後も諸外国との民間の架け橋を築く努力をしていきます。

最近の活動では、若者同士の交流から生まれるポジティブな効果が印象的でした。例えば、中国を訪問したある日本人の若者は、それまで中国にネガティブな印象を持っていましたが、自身の目で確かめた上で「マスコミが伝えていたイメージと全く違う、真の中国を知った」「これからも中国との関わりを増やしたい」というメッセージを寄せてくれました。これは、日本を訪問した中国の若者にも起きています。

政協委員として、中日間での青少年交流の拡大を切に望んでいます。80年代には3000人規模の1カ月にもわたる交流大会が行われていました。そのような活動を再び企画し、両国の青少年に中日関係の真のあり方を知ってもらい、友好事業の後継者になってもらう必要があると考えています。

・中国人民対外友好協会：1954年創設、諸外国との「民間外交」活動を展開する全国的な民間団体。民間レベルの友好増進、国際協力の推進、世界平和や共同発展の促進への貢献を主旨としている。



宋敬武  
中国人民対外友好協会副会長



高洪  
中国社会科学院日本研究所研究員

## 民間交流が外交政策に与える影響に目を向けよ

中日関係が『時に明るく、時に暗く』という悪循環に陥っている大きな原因は、日本政府の対中政策が定まらないことにあります。関係改善を進めようという一方で、日本社会全体が保守的になり、客観的な立場で中国の発展を捉えられず、他人の成功をまっすぐに評価できないという心理状態が表れていました。

中日両国は今、調和の取れた関係発展へ向けた歴史的チャンスに直面しています。この機会に根本的な関係改善をするには、政府、民間組織、メディアなど社会各界が共に努力していかなければなりません。いずれの国も、外交政策は民意の影響を受けるものです。そのため、民間交流に着眼すべきで、日本国民に客観的な視点で中国を知ってもらう必要があります。そして中国の人々にも、客観的な視点で日本を知り、両国の善隣友好という大きな趨勢や、その長期的な利点を認識してもらう必要があると思っています。

## 中国の今を世界に発信したい

政協委員を務める上で、中国の今を世界にどのように伝えていくかということを重視しています。去年行われた第19回党大会報告で、新たな発展理念や国政運営策が打ち出されましたが、これが対外報道されることで海外の人々との相互理解や友情の増進が進み、多くのリソースがもたらされました。これらを有機的に統合させ、海外へ正確かつ迅速に伝えることが、我々にとって今後の大きな課題です。

民間レベルでは関係改善を望む声が高く、冷え込んだ状況が続くことは望ましくないと考えられていますが、両国間に不確定要素が存在することも事実です。現在、中日関係はハードルを乗り越えつつありながらも、脆さの中に置かれているような状況です。これを突破するには人々の努力が必要で、この貴重な局面を大事にしなければなりません。私も現場の人間としての役割を果たしていきたいです。

・『人民中国』：人民中国雑誌社が日本語で発行する、1953年創刊の月刊誌。中国について総合的に紹介する内容で「中日両国民の友情の架け橋であり、中国事情を知る教科書」と評価されている。



王衆一  
雑誌『人民中国』編集長

# ボアオ・アジアフォーラム 2018年年次総会をCRIが特集

## 開放と革新のアジア 繁栄し発展する世界

アジア各国間の経済交流と経済連携の強化を目指すハイレベルの対話プラットフォームとして、4月8日から11日にかけて、ボアオ・アジアフォーラムが今年も海南省瓊海市の博鳌(ボアオ)鎮で開かれました。2001年に発足し、2002年に初開催された同フォーラムの開催は今回で16回目です。CRIからは李陽記者が密着取材に赴きました。

### ボアオ・アジアフォーラムを初取材・李陽記者

こんにちは!李陽です。海南島には何度も訪れたことがある私ですが、ボアオ・アジアフォーラムの報道に参加するのは今回が初めてでした。今年のフォーラムは「開放と革新のアジア 繁栄し発展する世界」をテーマに、63の国・地域から2000人以上が集まって、グローバル化、「一帯一路」、開放的なアジア、イノベーション、改革と再出発という4つの議題をめぐる話し合いが行われました。

私は主に中日両国の関係発展と各分野での協力、経済発展、アジア経済の未来などに注目しながら取材をすすめました。そして、これらの話題について自由民主党幹事長代理の林幹雄氏、内閣総理大臣補佐官の和泉洋人氏、アジア開発銀行(ADB)チーフエコノミストの澤田康幸氏など、日本の政治・経済界の代表らからお話を伺いました。本誌ではその内容を抜粋してお届けします。日本ではまだ報道の少ない同フォーラムですが、実際に参加した日本の方々の言葉を通して、理解を深めて頂ければ嬉しいです。

もう一つ、私にとって初挑戦だったのが、リポーターとして映像に出演したことです。緊張してしまいましたし、まだまだ未熟ですが、記事以上の臨場感で会場の様子を伝えることができたと思います。

ボアオでの取材記事やレポート映像は、CRI日本語ホームページの特集ページでご覧いただけますので、ぜひアクセスしてみてください!お便りやSNSのメッセージで、感想もお待ちしています。



## CRI日本語ホームページでボアオ特集を配信中!

CRI日本語ホームページのボアオ・アジアフォーラム2018年年次総会特集ページでは、習近平国家主席による開幕式での基調講演の内容をはじめ、各取材記事、映像レポート、ボアオの街の紹介といった情報を配信しています。

### 習主席の基調講演を日本語訳で掲載

4月10日のフォーラム開幕式には習近平国家主席が出席し、基調講演を行いました。中国の対外開放の再拡大と改革の再出発、そしてアジアと人類の運命共同体の構築などについて、中国の立場を明らかにしたこの講演の内容を日本語でご覧いただけます。

### 関連ニュースもチェック

特集ページには、フォーラム開催前後の関連ニュースへのリンクが設置されています。フォーラム開催前の準備段階のニュースから、開催後の各界の反応まで、CRIの日本語ニュースでご確認ください。

特集ページのアドレスはこちら↓

<http://japanese.cri.cn/781/2018/04/05/Zt141s271462.htm>



▲フォーラム開幕式で基調講演を行う習近平国家主席



## インタビュー

### 自由民主党幹事長代理・衆議院議員 林幹雄氏

「両国関係は非常に良く、友好的になってきています。これを機会に経済界の交流、青少年交流、スポーツ交流など民間交流を高めていくことが大事です。両国は隣国同士で、喧嘩しても仕方がないので、仲良くやっていき、お互いにいろいろな形で交流を高めていくことが非常に重要です。そのためには、両国のトップ同士が往来できるように、一日も早く安倍総理を北京に行かせ、また習近平主席に東京に来ていただくような環境を作り、国同士が発展できることを願っています」



### 内閣総理大臣補佐官 和泉洋人氏

「日中両国の関係改善と発展のためには、すべての分野で協力していくべきだと思います。昨年ベトナムのダナンで開かれたAPECで安倍総理と習近平主席が会談し、わずか2日後にフィリピンのマニラで行われたASEAN首脳会談で安倍総理と李克強総理が会談しました。こういった大きなモメンタム(勢い)をさらに生かし、あらゆる分野で日中間の友好が深化することを期待しています」

### 元総務大臣 増田寛也氏

「今年は日中平和友好条約締結40周年を迎える大事な年です。お互いに一衣帯水の仲なので、もちろん意見の相違点はいろいろあるかもしれませんが、それをきちんとした対話で乗り越えることが大事です。日中関係は浮き沈みがありますが、私はあまり心配していません。ちゃんと話し合えば、お互いに理解し合えるだけの関係になってきていると思います。経済関係においてもお互いに切っても切り離せない仲なので、これからさらに対話を重ねることが大切です」



### 参議院議員 片山さつき氏

「去年の末に、二階俊博幹事長率いる訪中団の一員として、習近平総書記をはじめ中国共産党の幹部らと協議し、一連の交流事業を行うことでほぼ合意に達しました。日中ハイレベル経済対話を行う予定もあり、日本と中国が貿易摩擦のない、ウィンウィンの関係となるようにしていきたいです。今日の分科会で中国電力企業連合会の劉振亜理事長とも話したが、電気のないところにクリーンな電気を供給する発電所を建設するなど、両国が一致するようなプロジェクトがあれば協力は可能であると考えています」

### アジア開発銀行(ADB)チーフエコノミスト 澤田康幸氏

「自由貿易の推進が非常に重要で、それによってアジア全体の成長が持続しています。また、アジア全体で不足しているインフラへの投資に資金を投入することが非常に大切です。その意味でAIIBとADBとの協力は今後重要になってくるでしょう。ADBを含む6社の多国間開発銀行が昨年、中国財政部と『一带一路』の枠内における協力強化に関する覚書に調印し、『一带一路』との協力の正式な枠組みができました。ADBとしても、良いプロジェクトがあれば『一带一路』と協力していきたいです」



# “ラジオは無くしてはならない” BCL歴60年・細谷正夫さんに聞く

■王小燕

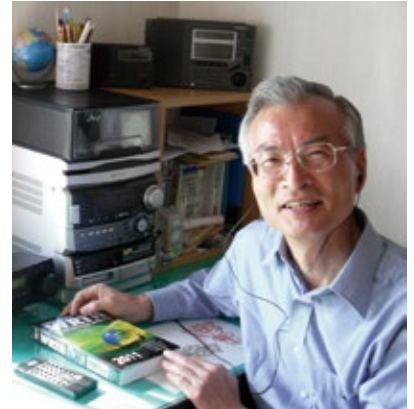
ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)によって、毎年2月13日は「世界ラジオデー(World Radio Day)」に定められています。今年のこの日に合わせて、ラジオ番組「CRIインタビュー」では、リスナーの皆さんへの感謝の気持ちを込めた企画として、1960年代初頭から世界各国のラジオを聞くこと(BCL)を趣味にしている細谷正夫さんにお話を伺いました。

## BCLとは

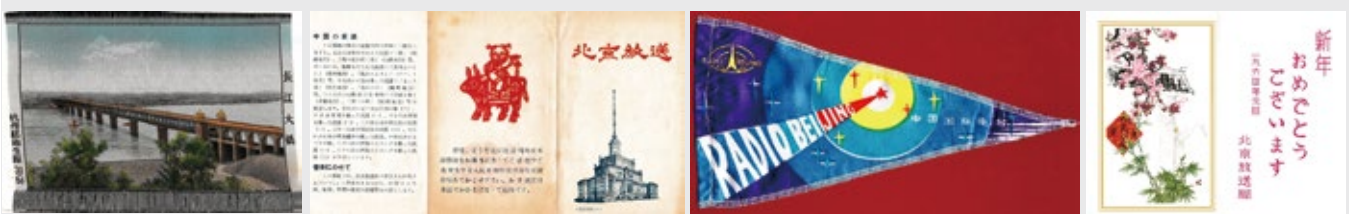
“Broadcasting Listening(または Listeners)”の略。特に短波による国際放送を受信して楽しむ趣味を指す。受信者が、受信した放送局名、年月日、時間と時刻、周波数、受信状態(SINPOコードによることが多い)、使用した受信機やアンテナの状況、放送内容の概略と、その感想などを記述した受信報告書を放送局に送ると、各放送局から受信したことを証明する受信確認証(ベリカード/Verification Card)が発行される。

## 細谷正夫(ほそや・まさお)さん

1946年山形県生まれ、元大学職員、東京都東久留米市在住。1960年代初頭から世界各国の国際放送の受信を始める。2008年にブログ「国際短波放送情報」を立ち上げ、日本語放送を中心に海外からの短波放送やメディア関連の話題を紹介している。



## ◆BCLは世界を知るための窓だった



60年代に北京放送から届いた贈り物を細谷さんは大事に保管している。  
左から1962年のハガキ大の織物、音楽番組の手引き、ペナント、1964年の年賀状

1960年代、世界はまだ冷戦の真っただ中だった。中学生だった細谷さんはBCLを始めた。モスクワ放送に北京放送、VOA…、「どれも国営の放送局で、その国の政治を反映した番組が多いことを前提に、それを聞くという形でした」と細谷さん。その中でも北京放送(現在のCRI)を聞いて受信報告を送ると、名勝旧跡のカレンダーや、古利の模様が織り込まれた「ゴブラン織」のテーブルセッターなどが送られてきたことが思い出深いと語る。

細谷少年にとって国際放送の魅力は「内容の理解」よりも、「外国からラジオの

電波が飛んできて、放送が聞こえる」ということ自体にあった。そして、当時を振り返りながら、日本のBCLの原点について細谷さんはこう紹介する。

「日本には、戦時中に大本営放送という、一方的な発表を信じ込んだことで、大勢の国民を戦争協力者にした歴史があります。その反省を込めて、山田耕嗣氏(1940-2008)をはじめ、『世界の放送を聞いて多様な視点で情報を収集し、判断力を身に付けよう』と呼びかける人たちが現れたのです」

細谷さんはその後、大学受験、就職、結

婚、子育てに追われ、BCLを約20年間中断する。再開したのは、1990年代のことだった。その時の中国は、1978年に始まった改革開放で社会が活気に溢れ、大きな変貌を遂げている最中だった。久しぶりに聞いた北京放送の番組は、「垢抜けたといいますか、アナウンサーの方の表情が非常に明るくて、びっくりしました」と、中国の変化を耳で感じたことが、まるで昨日のこのようだという。

## ◆もっと知りたい、普通の中国人の日本への思い

少年時代のBCL体験によって、細谷さんの心には異文化への好奇心の種がまかれた。それがのちに「就職して、いくらか経済的に余裕ができてから、海外に出かけていろんな所を旅行した」ことのきっかけに

なった。  
諸外国の中でも、中国には格別の思いがあった。それは、奥様が内蒙古の生まれだからだ。20年前に、一家そろって初めての中国旅行をした。目的地はほかならぬ

内蒙古だった。ハイラルと満州里を訪れ、番地を探した。「義母がこの辺りに住んでいたという話をしてくれて、家内と二人でもう涙ぐんでいました」と思い出を語る。義父は、戦時中に内蒙古の工務店に就職



就職が決まり、一家を連れて中国に移住した。敗戦後に日本に引き揚げるまでの2、3か月の間、中国の人々からいろんな形で助けてもらったという義母は、『何かの形で恩返ししなくちゃだめだ、だめだ』と亡

くなるまで言っていたそうだ。そんな、家族の実体験もあって、細谷さんは北京から発信される内容について、「建前論ではなく、普通の中国人が日本の今と昔をどう見て、どう感じているのか、

もっと紹介してほしい。それが分かれば、我々もどのように対応すればよいのかという答えが出てくると思います」と率直なリクエストを聞かせてくれた。

### ◆ラジオは無くしてはならない存在



1.細谷さんが愛読している日本のBCL書籍 2~4.CRI日本語部が毎月発送している

細谷さんは今、据え置き型ラジオ受信機1台と、外出時の携帯用小型受信機2台、計3台のラジオを所有している。

午後4時半を過ぎるとラジオルームに籠るのが日課だ。中国や韓国を始め、世界20カ国・地域からの電波を、夕食の時間を挟みながら4~5時間かけて受信する。それもただ聞き流すのではなく、MDに録音したり、メモを取ったりと忙しい、充実した時間だ。

インターネットが普及した今でも国際放送にこだわる理由について、「様々な視点に触れてこそ、初めて物事の本当の姿を判断することが可能です。発信者も根拠もよく分からないネットの噂話よりも、情報源のはっきりしたラジオからの情報の方が、僕には信頼性が高く思えます」と答える。

自身もパソコンとインターネットを駆使し、ブログでの発信も続けている細谷さん

には、国際放送は「ラジオで聞くのが原則」という強いこだわりがあるのだ。

「電波の状況によって、よく聞こえる時も聞こえない時もあります。周波数を合わせて、苦労に苦労を重ねて、言葉が途切れ途切れでも、『とにかく受信したよ』と受信報告を送って、放送局から『そうだ、その通りだ』ということを確認されたカードが送られてきた時の感激は、何物にも代えがたい魅力なんです」

ところで、細谷さんがBCLを中断していた1970~80年代、日本では中高生の間にBCLブームが沸き起こっていた。ブームはその後、急速に廃れてしまうが、近年になってかつての愛好家たちが戻り続けていると細谷さんは言う。

「現在の主流を占めているのはBCLブームの時の中高生たちなんです。年齢でいうと40代から50代。彼らがまたラジオを聞くようになっていきます。それに、今の中

高生や大学生の中にも、短波ラジオを聞いてみようという人がここ2、3年で徐々に増えてきています。非常に良い傾向だなと思っています」

リスナー仲間が増えることを喜ぶ細谷さん、ラジオの有用性についても一つ、「インターネットは便利ですが、万が一、回線が切れた時はやはりラジオが非常に有効な情報源です。大規模災害が起きた時は、ラジオはライフラインの一つになります」と付け加えると、話の結びに力強く言い切ってくれました。

「ラジオが無くなる、ならないという議論ではなく、ラジオは無くしてはならないのです」



1.「たくさんのお便り、ありがとうございます！」お便りは月ごとに冊子にして大切に保管しています。  
2.CRI日本語部に届いたお便りの一部。現在、年間6000通のお便りやメールが届きます。  
3.CRI日本語部に届くリスナーさんの受信報告の例







1



3



5



2



4

1.開幕式 2.「和して同ぜず」東京展の青少年展の作品を鑑賞する村山富市元首相(中央)。中央広播電視総台(チャイナ・メディア・グループ)日本リスナーズクラブの名誉会長でもある。 3.会場に集まった中国の芸術家らと交流する村山元首相 4.訪日代表団のメンバーらと浜田和幸元参議院議員(元外務政務官、右2) 5.チャイナ・メディア・グループ日本リスナーズクラブのメンバーと訪日代表団



6

## 「和して同ぜず」書画展 東京で開催

### ■文化交流実行委員会

中央広播電視総台(チャイナ・メディア・グループ)、全日本中国水墨画芸術家連盟、日中協会、国際書画交流協会が共催する「和して同ぜず」東京展および第28回全日中-東京国際美術大展が4月18日から23日にかけて、東京都美術館で行われました。中国、日本、アメリカなどの芸術作品200点あまりが展示されました。日本からは文部科学省と日中協会、中国からはチャイナ・メディア・グループの関係者および各国の芸術家100人近くが18日の開幕式に出席しました。

このイベントは、中日両国の書道や絵画を展示する国際的舞台として、また両国の芸術家たちの交流の場として、多くの人々から関心を集めています。

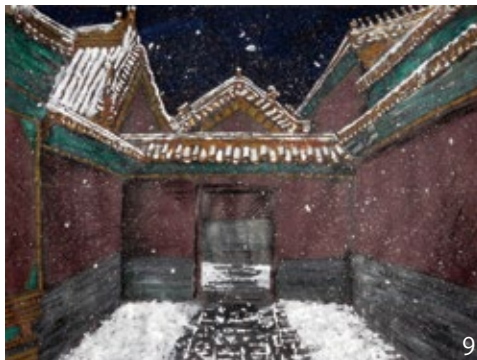
チャイナ・メディア・グループ日本リスナーズクラブの名誉会長を務める村山富市元首相は、初めて出展された子供たちの絵をじっと眺め、「レベルが高い」と作品の完成度を褒めました。



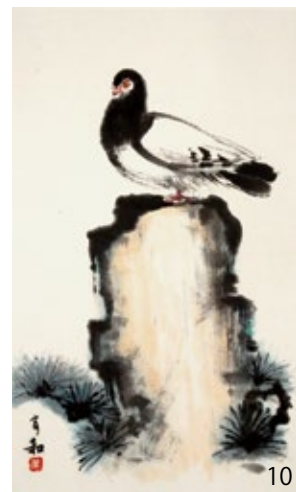
7



8



9



10



11

6.蘇宇光さんの作品「富貴吉祥」 7.蘇臻さんの作品「春の光にも似て」 8.格根卓拉(ゲゲンジョラ)さん(14歳、蒙古族)の作品「梅と鹿」  
9.銭清寧さん(14歳)の作品「夢」 10.肖和さんの作品「眺望」 11.李明さんの作品「年々ゆとりがありますように」



## CRI日本語放送・北京放送OB・OGは今 ③

## ラジオ人生40年

今回は2017年12月に、42年の放送局勤務にピリオドを打った張国清アナの寄稿です。

## 張国清(ちょう・こくせい)

1972年、吉林大学日本語学部に入學、1975年末北京放送(現中国国際放送局)に入局、日本人職員の添田修平氏らによるアナウンサー訓練を受ける。1985年、東京放送(TBS)で研修。1987年8月から上智大学に1年間留学。1992年7月から1995年12月まで東京支局長。1996年に日本語部部長就任。2005年5月から2009年11月まで再び東京支局長を務める。中国放送賞(中国広播賞)、中国国際放送局優秀賞など受賞歴多数。ニュースや時事解説のほか、「お便りの時間」、「放送音楽会」、「中国の旅」、「中国の文化」など多くの番組を担当した。



光陰矢の如し。1975年12月の入局から2011年9月の定年退職までの36年間を振り返ると、感極まるものがある。入局当時の日本語部は、日本人職員や華僑が多く、朝のミーティングではほとんどが日本語だった。大学を出たばかりの私は新鮮さを覚えると同時に、ついていかなければと思ひ懸命に勉強した。1年後、アナウンス部に配属され、毎日のように先輩たちから発声と発音を教わった。「時事解説やニュースの放送に加わるように」との指示を受けた時の興奮は今も忘れられない。これまで多くの番組を担当してきたが、その中で聴取者からのお便りなどを紹介しながら質問に答える「お便りの時間」という番組を、林華アナウンサーと共に8年ほど経験し、多くの聴取者と親しくなった。



忘れたい人や思い出はいくつもある。1989年、東京の高島屋で大中国展が行われ、日本語部の女性アナウンサーと共に中国の観光地や中国の歌などを紹介する館内放送を行った。多くの日本人が放送室の周りで、珍しそうに私たち二人を見ていた。放送が一段落したところで、坂田和子さんという女性とその姉の横地治子さんが、私たちに北京放送のことを詳しくたずねた。坂田さんはのちに、「北京放送を聞こうと、その日のうちに短波ラジオを買った。これが北京放送との交流を始めたきっかけだった」と話してくれた。坂田さんは毎日のように北京放送を聞き、中国にも何回も訪

れ、職員とも親しくなって、若手から「坂田おばさん」と慕われるほどになった。



また、岐阜県にお住まいの岩田博さんとは30年ほどの付き合いがある。東京勤務時代、何度もご自宅を訪ねた。岩田さんは1950年代に北京放送を聞き始め、今も毎日聞いているという。ある日、大切にしている北京放送からの返信の手紙や会報、切り紙、カレンダーなどを見せてくれた。分厚い手紙の束や70年代、80年代のカレンダーをめくりながら、感動を抑え切れなかった。これほど、十年一日のごとく聴いてくれる人がほかにいるだろうか。北京放送の手紙や切り紙、カレンダーをこれほど大切にしてくれる人がいるだろうか。これらを目の前に感動を覚えない人はいないと私は思った。

東京には、「北京放送を聞く会」がある。1970年代初めに発足し、中国や北京放送のことを日本人に知ってもらうのに一役も二役も買った。しかしのちに会員数がめっきり減って、会費で会の運営をまかなえず、事務所として長年利用してきた家の賃貸料さえ払えなくなってしまった。解散の瀬戸際に追い込まれた時、宮原勲さんという年配の方が、自ら会長を引き受け、会社の一室を無料で提供してくれた。おかげで「聞く会」はその後も何年も続いた。宮原さんは故人となってしまったが、今も忘れることができない。

2006年12月3日、北京放送は創立65

周年を迎えた。これに先立ち、東京でも創立記念大会を開こうと局に提案したところ、承知してくれた。半年前から準備にとりかかり、会場の予約や参加者の選定、招待状の発送などで大変忙しかった。当日、会場に日本の各日中友好団体、北京放送を聞く会などからあわせて18基のスタンド花が送られ、これらの友好団体や政界、企業の代表、それに中国大使館の関係者らが参加してくれた。北京からも代表団が訪れ、一堂に会して和気藹々と楽しいひと時を過ごした。海外で創立記念式を行ったのは北京放送として初めてのことで、局を大きくアピールでき、忘れがたい思い出になった。



今はニューメディアの時代である。従来のラジオ番組だけでは、もはや聴取者の期待に応えられない。そこで、放送番組とニューメディアとの融合をはかり、みんなに喜ばれるラジオや映像番組をいかに作っていくかが我々に与えられた任務である。視聴者は外国人で、外国でわれわれのラジオ番組を聞き、映像番組を見ているのだということを胸に刻んで、制作に力を入れていただきたい。

1.張国清夫妻(左・右)とリスナーの坂田和子さん(中央)

2.「長野県北京放送を聞く会」会員との記念写真

3.「北京放送を聞く会」会員の記念写真(左2は同会の宮原勲会長)

中国の苗字を知る

# 百家姓物語

■張怡康

書籍『百家姓』は、子供らに漢字を教えるために馴染みのある姓を504集めた学習書の1つで、北宋(960~1127年)の初めころに成立したとされます(諸説あり)。「趙錢孫李周呉鄭王…」とリズムカルにはじまり、中国の代表的な姓が記されています。

このコーナーでは、『百家姓』から取り上げた中国の苗字を紹介します。



## 趙(zhào)

使用人口:2670万 人口ランキング:8位

今回取り上げるのは『百家姓』に記された最初の姓、「趙」です。

趙という苗字の由来は諸説ありますが、最もよく言われるのが、「嬴(えい)」という苗字から来たという説です。「嬴」氏の祖先は伯益という人で、彼の孫に造父という人がいました。造父の仕事は御者(馬を御する人)で、8頭の千里の馬を操り、2日間で1000キロ走ったという伝説を持つほどの

達人であったため、雇い主である西周時代の第5代王——穆王(ぼくおう)に気に入られ、趙の城(現在の山西省北部)を与えられました。こうして、造父の子孫が趙姓を名乗るようになったそうです。

その後、子孫たちは各地に広がり、現在では漢民族だけでなく、遊牧民族の匈奴人、南蛮人、モンゴル族、チワン族、ヤオ族といった人々の中にも「趙さん」が大勢い

ます。趙の一族は、はじめは山西省と山東省の辺りに多く分布していましたが、それから河北省、河南省、湖北省、甘肅省へと拡大していき、三国時代に大規模に南へ移動して、最終的に全国に広がったということです。

### 【関連知識】

#### 「趙」姓の有名人①——趙禹



前漢の時代に、趙禹という役人がいました。彼は裏取引を一切許さない、清く正しく忠実な人間で、どんなに偉い相手であっても、不正な頼み事は必ず断りました。そのため、周りから「孤立行一意(ルールを守り、自分の意思で正しい行いをする人)」と高く評価されました。ただ、この言葉から生まれた四字熟語「一意孤行」は、「人の意見を聞かずに、自分の考えを推し進める人」の事を意味するので注意が必要です。

#### 「趙」姓の有名人②——趙雅芝



趙雅芝は「不老の女神」と呼ばれる1954年香港生まれのベテラン女優。『上海グランド』『倚天屠龍記』『楚留香』など数多くのヒットドラマに出演し、スターダムにのし上がりました。そんな彼女を人気の頂点に立たせたのは、中国古代の四大民間伝説を基にしたドラマ『白蛇伝』で演じた白蛇の妖怪役です。女性に化身した白蛇が人間の男性と恋に落ちるも、禅師たちに正体を見破られ、西湖畔の雷峰塔

に封じ込められるという、悲しい物語です。ドラマ放送を機に、浙江省西湖畔の雷峰塔は、一層有名な観光スポットとなりました。



■張怡康  
(ちょう・いーかん)

2014年入局。初めて日本語に触れたのは1997年。日本語部では主にラジオ番組、SNSプラットフォームの管理、映像番組(ネット)を担当。中国語講座番組「日本で実践!中国語」では、「日本で中国人と出会った時に使える中国語」をお届けしています。

遼寧省出身。北京第二外国語学院日本語同時通訳専攻卒、ニューヨーク大学大学院修了。



# 日本で実践!中国語

## かけはし出張版 携帯ショップでの会話

この講座番組では、日本で中国人と出会ったとき、どんな風に中国語で会話すれば良いかを一緒に勉強しています。

新年度が始まり、留学や仕事のために日本で新生活を始める中国人が周りに増える頃かもしれません。初めて日本にやってきた中国人が必ずすることは、携帯電話を買う事です。今回は、携帯ショップで中国人のお客さんが来た時に使える会話を勉強しましょう。

「日本で実践!中国語」の第34課の内容を抜粋してお届けします。

ちょういーかん  
張 怡康



「初めてのお花見in上野公園(1997年)」

うめだ けん  
梅田 謙



「自作の“未来のバスの帽子”をかぶり喜ぶ小学生の私」

### 会話

- Qǐng gàosù wǒ zhège shǒujī zěnmeyòng.  
A: 请告诉我这个手机怎么用。  
Nín yǐqián yòngguo zhìnéng shǒujī ma?  
B: 您以前用过智能手机吗?  
Yòngguo píngguǒ xìtǒng de.  
A: 用过苹果系统的。  
Zhìnéng shǒujī de yòngfǎ dōu chàbùduō.  
B: 智能手机的用法都差不多。  
Fèiyòng zěnmeyòng?  
A: 费用怎么算?  
Wǒmen gōngsī yǒu hěnduō tàocān,  
B: 我们公司有很多套餐,  
wǒ gěi nín jièshào yíxià ba.  
我给您介绍一下吧。

### 訳文

- A: この携帯電話の使い方を教えてください。  
B: いままでスマートフォンを使ったことがありますか。  
A: アップルのものなら使ったことがあります。  
B: スマートフォンの使い方はだいたい同じです。  
A: 料金はどうなっていますか。  
B: 私どもの会社には色々なプランがあります。ご説明しますね。

### 構文: 動態助詞

- ★过: …したことがある(経験を表す)
- ★着: …している
- ★了: …した(動作が終了した時に使う)

### 単語

shǒujī 手机	携帯電話
gàosù 告诉	告げる、教える、知らせる
yòng 用	使う、用いる
zhìnéngshǒujī 智能手机	スマートフォン
yòngfǎ 用法	使い方
dōu 都	いずれも、全部、みんな
chàbùduō 差不多	ほぼ同じだ
fèiyòng 费用	料金
suàn 算	計算
jièshào 介绍	紹介、説明、知らせる

「日本で実践!中国語」は以下の方法でお聴きいただけます。

- ☆Podcast iTunesや対応アプリで「中国語」「日本で実践」を検索。
- ☆CRIラジオ 毎週火曜日と金曜日に好評放送中!
- ☆Webサイト CRI公式サイト「中国語教室」コーナーへお進みください。  
URLはこちら→<http://japanese.cri.cn/hanyu>





## 北京暮らし～北京の町巡り「天通苑」～

■劉叡琳

このコラムでは、ガイドブックには載らない市民の生活エリアをご紹介します。

北京市の面積は1万6800平方キロで、日本の四国4県とほぼ同じ、東京都のおよそ8倍にあたります。16の区と2つの県からなり、人口は2017年末現在で2170万7000人となっています。

市内の数ある住宅エリアから、今回は「天通苑」地区をピックアップしましょう。

「天通苑」は天安門から約25キロ、市街地北部の昌平区にあり、面積は48万平方メートルで人口は70万人あまり(2016年末時点)、アジア有数の住宅街と言われています。

2000年以降に宅地開発が進み、5つある団地エリアに約700棟以上のマンションが立ち並び、デパートやスーパー、映画館、レストランなどが揃っています。しかし、公立病院や学校が少なく、住み心地が悪いと言われたこともあります。

緑化面積は36%ですが、住宅はほとんどが20階以上の高層マンションで、まさにコ

ンクリートジャングルです。そのためか家賃は安く、出稼ぎ労働者が沢山集まります。特に東北地区の出身者が多く、「東北人の天国」とまで言われています。不動産屋の店員、美容師、出前の配達人、露店商など、ほとんどの人が東北なまりです。

また、交通渋滞がひどいことでも有名です。市中心部への幹線道路はたった1本で、朝の通勤時間帯は大渋滞し、平均時速が5キロ程度の時もあります。夕方のラッシュもひどく、多くの社員が「帰宅はいつも午後9時過ぎ」と嘆いています。「朝起きてすぐ出勤。帰宅したらもう寝る時

間。昼間は人気がなく、町全体が眠っている」といった、典型的なベッドタウンです。

ただ、いいところもあります。ここは北京のオアシスであるオリンピック公園から僅か3キロ、また周囲も大きな公園に囲まれています。地価が安いので家賃も安く、またレストランや屋台も安いメニューが多いので、低所得者が大都会で生き残れる場所になっています。

毎年、全国各地から多くの若者が夢を求めて首都・北京へ向かい、その多くがこの天通苑を住処にします。そして同じように毎年、努力して、より快適な環境を求めて天通苑を後にする人も大勢います。今暮らしている人、かつて暮らしていた人、これからここを訪れる人々。この町にまつわる夢や青春、奮闘の物語がまだまだ続きます。

なおアクセスは、地下鉄5号線「天通苑駅」下車です。



■劉叡琳

(りゅう・えいりん)

2002年入局。ニュースキャスターのほか、毎週月曜日の番組を担当。

「ライフマガジン」やネット更新中の「いきいき中国」で、最新のライフスタイルから、昔ながらの懐かしい暮らしまで、「生」の中国をお届けしています。

雲南省出身。北京第二外国語大学大学院日本語専攻修了。





# あなたの知らない パンダあれこれ

## ジャイアントパンダの恋愛・繁殖事情

■周莉

所変われば好みも変わる。でもパンダを可愛いと思う気持ちは世界共通でしょう。春になって、ジャイアントパンダも恋の季節を迎えました。新鮮な笹やタケノコなど、食べ物の豊富な時期に交尾し、栄養を蓄え、夏から秋にかけて出産を迎えます。今回は、希少動物であるジャイアントパンダの恋愛・繁殖事情を徹底究明します！

### 🐼 勇者が勝つ 野生パンダのロマンス

野生のパンダは、毎年3月から5月にかけて交尾します。発情期のメスは、短い尻尾をブラシのようにして、肛門の周囲の腺体分泌物を太い木に塗りつけます。この分泌物に健康状態、生育能力などの大切な情報を伝えるホルモンが含まれています。その匂いが風に乗って遠くまで送られ、「彼女」募集中のオスに届きます。



勇者

野生のパンダは通常、一生で5頭から8頭の子供を産みます。なるべくよいDNAを伝承するために、慎重に相手を選ばなければなりません。このためメスは、少しでも多くのオスを引き付けようとします。

パンダは、地上のどこでも休息することができますが、森に生息しているほかの動物から身を守るため、たいてい高い木に登って枝の上で休みます。繁殖期に入ったメスは、分泌物を木に塗りつけたあと、木に登って「彼氏候補」を待ちます。

パンダは基本「一人暮らし」で、一つの縄張りに複数のパンダが現れることはありません。しかし繁殖期である春は、オスが木に残ったメスの匂いを嗅いで、健康状態を確認するほか、ライバルとなる他のオスの匂いがあるかどうか確認します。そして、自らの存在をメスに知らせるため、近くの木に自分の匂いを残します。場合によっては、3頭、5頭、あるいはそれ以上のオスが

1頭のメスに求愛することもあります。

彼女のハートを掴むため、オスたちは木の上のメスが見守る中、激しい争奪戦を繰り返します。この時のオスは可愛げなく、鋭い牙や爪で相手を激しく攻撃し、数頭による乱戦シーンも発生します。この激しい争奪戦を最終的に勝ち抜くのはたった1頭。敗者は血を流し、時には命を失うこともあります。

運がよければ勝者となり、メスと結ばれて新しい命を授けられます。しかし運が悪ければ、命がけの戦いに勝ち抜いても相手にされないこともあります。お気の毒に。

### 🐼 飼育状態のパンダ、 「プレイボーイ」ぶりを発揮

そして、飼育されているパンダもかなりの選り好みをします。ただし自由に恋愛できる野生のパンダとは違って、そもそも選択肢がかなり限られます。

現在、飼育パンダの数は400頭あまりです。オスとメスが半分ずつとして、200頭の中から選ぶわけですね。しかもその中に、人工飼育のため交尾不能であるか、遺伝子的に繁殖に向かないオスがかなりいます。このため、あまり相手を選ばず、しかも、多数のメスパンダに惚れられてしまうパンダ界の「プレイボーイ」が実に貴重な存在なのです。



交尾の様子

TBSのアナウンサーでパンディストを自称する安住紳一郎さんが、自身のラジオ番組にて、和歌山のアドベンチャーワールドで双子の赤ちゃんパンダが生まれたニュースを取り上げたことがあります。安住さんは、それまでに15頭もの子をもうけてきた父パンダ「永明(エイメイ)」の偉大さについて熱く語り、飼育頭数が少なく、繁殖相手に対する好き嫌いが激しいパンダのカップリングというのは、「1学年2クラ

スあるような学校で、とにかく自分のクラスか隣のクラスから相手を選ぶようなもの」と話していました。

現在、中国国内のパンダ繁殖施設で現在大活躍している「プレイボーイ」のパンダとして、「勇勇(ヨンヨン)」と「芦芦(ルールー)」という2頭が挙げられます。いずれも利口でカッコよく、野生パンダの血縁に近いなど、遺伝学的にふさわしい元気な存在です。



芦芦

ちなみに、中国で非常に有名な武俠小説『天竜八部』に登場する、大理国皇帝の弟の段正淳(鎮南王)は、世界中に自分のDNAをばら撒くことが趣味のような人間です。これにちなんで、大勢のメスに子供をさせた「勇勇」は、パンダファンから「段正勇」と呼ばれています。

一方の「芦芦」は、ハーレム状態にある皇帝のイメージから、「芦皇」と呼ばれています。時に交尾相手に乱暴な振舞いをしたりしますが、「喜妹(シーメイ)」という本命の彼女に対してだけはとても優しく接するそうです。

意外と激しくドロドロとしたパンダの恋愛・繁殖事情、いかがでしたか?今後も気になるパンダ情報をどんどん調べて、お届けしていきます。



■周莉

(しゅう・り)

1998年入局。

ニュースデスクのほか、毎週木曜日の番組を担当。長年日本へ発信する第一線で積み上げたノウハウを生かして、聞き甲斐、読み甲斐のあるイキイキとした情報をお届けします!

# “花は美しい”そう感じる心は中国も日本も同じ

## 春を分かち合う喜びと感動 2018年のさくら便りを振り返る

■CRIさくら探検隊代表・王小燕

2014年からCRI日本語部の恒例イベントになった「さくら便り」は、この春で5回目を迎えました。3月下旬のスタートから1カ月ちょっとで、中日両国から100通余りの花便りが届き、Facebookページ「CRI日本語」に掲載した関連の記事は、閲覧回数が計70万回、シェア件数は1万5000件を記録しました。皆さんの投稿を通して、春の美しさを国境を越えて分かち合うことができました。ご協力に厚く御礼申し上げます。

ちなみに今年は、日本でも中国でも気温上昇のスピードが速く、例年に比べると一週間ほど早い桜の開花でした。東アジアは、同じ春を共有していると実感しました。

### CRIに咲く今日の桜～2018

CRI敷地内の前庭には、長野からやってきた桜の木があります。1996年5月に「長野県北京放送を聞く会」と「長野中国語を学ぶ会」の皆さんから、新局舎の竣工記念として贈られたソメイヨシノ20本です。植樹から23年目の春となった今年も、きれいな花をつけ、北京の春に彩りを添えてくれました。今年の「さくら便り」では、3月18日から4月5日まで、スタッフ一同による日替わり観察日記のコーナーを設け、これら桜の開花プロセスを写真入りで紹介しています。今年の開花は3月28日で、満開は31日でした。

CRIで満開に咲いた桜をバックに記念撮影を行う——これが、CRI日本語部の毎年の春の楽しみです。今年も長野の皆さんへの感謝の気持ちを込めて、シャッターを切りました。写真は4月2日のものです。



### 2018中国さくら便り

中国各地の桜ブームは今年も続いています。中でも、江蘇省無錫市と浙江省寧波市寧海県では桜の祭典が開かれ、CRI日本語部の記者が取材しました。無錫の取材については、謝東アナが次のページに記事を寄せています。一方の寧海県で桜まつりが開催されたのは今回が初めて。

地元の日系企業による桜の苗の寄贈をきっかけに、街道(町)が一緒になって桜を植樹しました。記念すべき第一回に、日本からは音楽、華道、書道、介護サービス、産業など、各界のエキスパート60人からなる豪華訪問団が駆けつけ、3日間にわたる中日文化交流行事も行われました。

両国は根の部分で、強い絆で結ばれているのだと強く実感した取材でした。

このほか、南京、上海、合肥、南昌、鄭州、重慶、西安、長沙、武漢、杭州などから、美しいさくら便りが届きました。



3月30日、第一回寧海橋頭胡さくら祭り開幕式の様子



橋頭胡街道健康居家養老服務中心(高齢者向けデイサービス施設)で行われた中日手芸交流の様子



## 中国各地からの投稿



3月21日 湖北省武漢市・東湖(王青華さん)



3月21日 武漢櫻花園の夜桜(スイカさん)



3月23日 江蘇省南京市・鷄鳴寺(悟小空さん)



3月24日 浙江省杭州市・太子湾公園  
(随遇而安さん)



3月28日 陝西省西安市・西安交通大学  
興慶キャンパス(李国棟さん)



4月7日 安徽省合肥市・中国科技大学  
(王姜元さん)

## 2018日本さくら便り

日本からも沢山の花便りが届きました。皆さんのお陰で、東京、兵庫、京都、奈良、滋賀、新潟、愛媛、愛知、山梨など日本列島各地の春景色を満喫することができました。

2014年の企画開始から毎年、お便りを寄せてくださっている東京の細谷正夫さん、埼玉の小笠原広行さん、愛知の杵本直正さん、新潟の“米どころ”さん、大分の姫野俊治さんといった、嬉しい顔なじみの方々もいれば、今回が初となる北海道と高知県からのお便りもありました。そして数々の投

稿者の中でも、特に印象深かったのが、関東の“淘気爺爺”さんと関西の“花咲か爺さん”さんです。毎日のように投稿して下さったお二方の情熱とパワーには、感謝の気持ちでいっぱいです。

初投稿の高知県の杉村和男さんは、なんと、CRI(北京放送)受信歴40年の古参リスナー。清流・四万十川のほとり、そして県境の愛媛県西予市野村町大野ヶ原など、数々の深い思いがこもった写真が送られてきました。そこに添えられたお手紙には「花を見て美しいと思う」のは、中国も

日本も同じなんだと感じました。お互いに、そこに咲く美しい花や風景を見たり、聞いたりすることは大変良い交流になると思います」と綴られていました。

——この言葉には、中国人も日本人も、きっと誰もが同意することでしょう。花の美しさを分かち合う、こんなに素敵なお手紙は他にありません。来年の開花が今から待ち遠しいです。



3月28日 京都嵯峨・大沢池の桜。日本最古の庭池で、中国の洞庭湖になぞらえて作られたことから「庭湖」とも呼ばれる(“花咲か爺さん”さん)



## 日本各地からの投稿

都会の春



3月23日 東京六本木 龔理さん



4月12日 大阪市・造幣局の桜の通り抜け “洵気爺爺”さん

越後の春



4月7日  
新潟市中央区西大畑公園  
米どころさん

堀と柳をイメージした西大畑公園。新潟市中心部にはかつて写真のように堀が多くあり、その傍らで柳の枝が風に揺れていたそうです。1985年竣工の公園で、春の桜、秋の紅葉でも知られています。また園内には、子どもと遊ぶ良寛さん（江戸時代後期の僧侶）の像もあります。



4月9日 群馬県甘楽町 (町長)茂原荘一さん

甘楽町の最大イベントである城下町小幡さくら祭り「武者行列」は9日に、第33回目が行われました。このお祭りをめがけて、北京からは北京放送OBの李健一さん、鄭湘さんご夫妻が甘楽町に見えました。写真右は大名庭園楽山園で八重桜を楽しむ李さんご夫妻。



甘楽町の春



左から 東京都・多摩森林科学園のホシザクラ(“洵気爺爺”さん)、愛知県西予市宇和町間間(杉村和男さん)、京都府・佐野藤右衛門邸(“花咲か爺さん”さん)





## 無錫国際花見ウィーク

# 31年目の再出発

■謝東

今年の春はまさに「三寒四温」の言葉どおりの気候。3月の下旬ごろに、いきなり気温が上がって、あちこちから桜の開花便りが届きました。

私の花見の経験は、日本では東京周辺の数カ所に、名古屋でも見たことがありますが、中国では北京の玉淵潭公園とCRIの桜だけ。そんな、国内の桜の名所にずっと憧れていた私に、やっとチャンスが訪れました！

それは、今年31回目となる、無錫国際花見ウィーク(桜まつり)の取材です。実は、ずっと前から、春の時期に江南地方へ行ってみたくて思っていました。春の江南地方は一番美しいと聞いていたからです。

初めての無錫市への旅、そして初めての日本と北京以外での花見。出発の日を、指折り数えました。

無錫といえば、尾形大作の『無錫旅情』を思い出す日本人の方が多いのではないのでしょうか。しかし、実はそれだけでなく、日本とゆかりの深い場所があります。それが、この無錫国際花見ウィークの舞台でもある、「中日桜友誼林」です。この友誼林は、1987年に坂本敬四郎氏と長谷川清巳氏が創立した「日本友誼林建設実行委員会」と無錫市による友好プロジェクトによって整備されたもので、当初あった桜の木は1500本、それが今や植樹面積は65万平方メートルとなり、100品種の桜が計3万本以上植えられた「桜の谷」になっています。早咲きの品種には

「河津桜」「カンヒザクラ」などが、中咲きは主に「ソメイヨシノ」、遅咲きには「ショウゲツザクラ」「フゲンボウ」などがあり、一カ月にわたって桜の花を堪能できます。

この友誼林は、無錫の観光名所・太湖のほとりに位置する鼈頭渚(げんとうしょ)公園にあります。

鼈頭渚では1917年から造園や別荘の開発が始まり、国内でその名の知れた観光名所でした。それが現在は中日桜友誼林によってさらに彩られ、中国随一の花見スポットとして知られるようになっていきます。毎年、桜のシーズンには全国各地から50万人を超える観光客が殺到するほどです。

毎年の開花に合わせて、無錫市では花見ウィークと中日桜友誼林建設記念イベントが同時に行われますが、今年で31年目という新たな一歩を踏み出しました。新たな出発点に際したグレードアップによって、より国際的な催しとなっています。

開催期間中には、無錫市高品質発展懇談会、国際友好協会協力意向書署名式典、国際コンベンション経済座談会、外国映画鑑賞会、国際観光物産教育展示会、日本伝統文化展示活動などが行われ、関連行事には日本の民間団体、上海駐在の日本機構の代表、友好都市の代表のほか、日本、アメリカ、デンマーク、アイルランド、シンガポール、エチオピア、アラブ首長国連邦の上海駐在領事館代表らも参加しました。

習近平国家主席が語った『国之交在于

民相親、民相親在于心相通(国家間の交流は国民が互いに親近感を持つことにあり、国民が互いに親近感を持つことは心が通じ合うことにある)』という言葉の通り、桜を通じて、中日間だけでなく、世界各国の人との交流を拡大していくことを無錫市は考えているようです。



■謝東  
(しゃ・とう)

1992年入局。中国語講座関連の番組「キーワードチャイナ」や「文法ノート」などを担当。言葉は生きものという考えのもと、教えるというよりも、リスナーの皆さんと一緒に勉強していく気持ちで日々努力している。

北京市出身。1992年北京師範大学日本語学部卒業。2004年～2005年慶応義塾大学メディア・コミュニケーション研究所客員研究員。

# イチオシ! 中国映画



## 后来的我們 (Us And Them)

公開日:2018年4月28日

監督:劉若英(レネ・リウ)

主演:井柏然(ジン・ボーラン)

周冬雨(チョウ・ドンユイ)

田壮壮(ティエン・チュアンチュアン)

女優・歌手として活躍する劉若英が映画監督デビューを果たしました。その初作品は『捉妖記』などの人気俳優、井柏然と『サンザシの樹の下で』などの人気女優、周冬雨を主演に迎えた恋愛映画『后来的我們』。「青春と成長」をテーマに、カップルの出会いと別れ、そして再会をセンチメンタルに描く10年間の恋の軌跡となっており、「知性派美女」として知られる劉若英らしい1本です。

注目の助演は、映画監督としても知られる田壮壮。彼は昨年の張艾嘉監督の話題作『相愛相親(Love Education)』で劉若英と共演したことがきっかけで、今作への出演が実現しました。

田馥甄が歌う主題歌「愛了很久的朋友」も、センチメンタルでキャッチーなメロディーで、映画と共に大ヒットを記録しています。



## 暴裂無声 (Wrath of Silence)

公開日:2018年4月4日

監督:忻鈺坤(シン・ユークン)

主演:宋洋(ソン・ヤン)

姜武(ジャン・ウー)

袁文康(ユエン・ウェンカン)

譚卓(タン・ジュオ)

デビュー作『心迷宮(The Coffin in the Mountain)』(2015)でいきなり第52回台湾金馬奨の新人監督賞にノミネートされた若手監督、忻鈺坤の最新作『暴裂無声』。本作は、中国北方の小さな町を舞台に、行方不明になった子どもを探すため、あちこちを奔走する父親と、その先々で出会った人々の姿を描き、中国社会の世相と真実に迫る社会派犯罪ミステリーとなっています。物語は監督が目にした社会ニュースを原型としており、脚本は『心迷宮(The Coffin in the Mountain)』の発表前にすでに完成していたということです。一般公開に先立ち、2017年7月27日に青海省西寧市で開かれた第11回FIRST青年映画祭で先行上映され、好評を博しました。一般公開を楽しみにしていたファンも多いことでしょう。



## 幕後玩家 (A or B)

公開日:2018年4月28日

監督:任鵬遠(レン・パンユエン)

主演:徐崢(シュー・ジェン)

段博文(ドエン・ボーウェン)

王硯輝(ワン・イェンホイ)

デビュー当時はコメディに数多く出演し、近年はシリアス作品でも印象的な演技を見せた個性派、徐崢主演の新作は、マネーロンダリングを題材にした犯罪サスペンス『幕後玩家』。徐崢演じる億万長者がマネーロンダリングに手を染めたことで、とんでもない危機に巻き込まれながらも、贖罪の旅へと出掛ける物語です。徐は今作で、殴られたり、雨に降られたりするなど、様々な「痛い」演技に挑戦し、過去の出演作と比較して最も過酷なパフォーマンスを見せてくれました。監督は『刺夜(The Deadly Bullet)』(2013)の任鵬遠。共演は日本でも公開された『西遊記2 妖怪の逆襲(原題:西遊・伏妖篇)』(2017)などの人気女優、王麗坤(ワン・リークン)です。

### ■ 関亦冰(みん・いひょう)

音楽や映画、生活などさまざまなジャンルの番組を手がけ、10年以上ラジオのパーソナリティとして活躍。2015年から日本語部映像担当プロデューサー。カメラを通して中国の最新情報と魅力を発信しています。





# 映画のキャッチコピーに学ぶ

映画ポスターに欠かせないのが、「キャッチコピー」。作品の魅力が凝縮された中国版キャッチコピーを通して、現代の中国語を学んでみませんか？



## 捉妖記2 (Monster Hunt 2)

yāo jiè tóng rén hè suì xīn chūn dà sòng zhuō fú  
 妖界同人贺岁新春大送捉福  
 (妖怪たち、人間と一緒に新年のごあいさつ 新春の幸せを「ハント」しよう!)

2018年の大ヒット春節映画『捉妖記2 (Monster Hunt 2)』のキャッチコピー。旧正月らしい、めでたい内容です。「贺岁(賀歳)」は「お正月を祝う」という意味で、映画業界では正月映画を「賀歳片」と呼びます。また、「大送“捉”福」は「大送祝福」(たくさんの祝福を送る)をもじったもので、「祝(ZHU)」を映画タイトルの文字「捉(ZHUO)」に入れ替えたわけです。



## 唐人街探案2 (Detective China Town2)

niū yuē nòng xǐ yī xiào dào dǐ  
 纽约弄喜一笑到底  
 (ニューヨークで喜劇を演出 最後まで笑っちゃおう)

王宝強(ワン・バオチャン)と劉昊然(リウ・ハオラン)演じる探偵コンビが世界の中華街を舞台に活躍するシリーズ第2作『唐人街探案2(Detective China Town2)』のキャッチコピー。「弄喜」とは「人を笑わせる・喜ばせる」という方言で、探偵コメディーらしさが前面に押し出されています。今作の舞台はニューヨーク、日本から妻夫木聡、米国からマイケル・ピットが初参戦しています。3作目は日本が舞台になるとのこと。そのキャッチコピーも今から楽しみです。

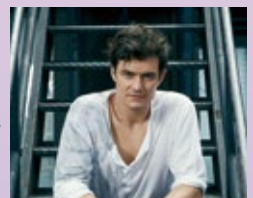
ただでさえ長い海外セレブたちの名前が、中国語では漢字表記に。たとえば「ベネディクト・カンバーバッチ」は“本尼迪克特・康伯巴奇”...どうです、めまいがするでしょう？そんな彼らに、中国のファンたちは心を込めた愛称をつけるのが慣例です。その由来を知れば、中国人の心理や世相を理解する鍵になるかもしれません！

知ってる？海外セレブたちの中国語ニックネーム

kāi huā  
 开花

オーランド・ブルーム/オランド・布鲁姆 (イギリスの俳優)

彼はデビュー当初『ロード・オブ・ザ・リング』シリーズのレゴラス役を好演したことで「精霊王子」(レゴラスの中国訳名)として親しまれました。それが近年、様々な作品に出演して「精霊王子」のイメージが薄れてきたことから、「开花」と呼ばれるようになっていきます。「开花(開花)」は文字通り「花が咲く」という意味で、名字の「ブルーム(Bloom)」を表しま



jié shí jiě  
 结石姐

ジェシー・J/婕西J (イギリスの歌手)

いま中国でブレイク中の欧米歌手と言えば、ジェシー・Jの名が真っ先に挙がります。彼女は湖南衛星テレビの音楽系リアリティ番組『歌手』に出演中で、全国的な注目を集めています。同番組はプロの歌手のパフォーマンスに500人の観客が投票し、最下位の歌手から番組を降りていくという、勝ち抜き形式のスタイルで人気です。完璧な歌唱力を披露するジェシー・Jは優勝候補とされています。そんな彼女の愛称の「结石」とは、なんと腎臓結石のこと！「结石」の発音「jié shí」が「ジェシー」に似ていることに加え、彼女の持ち味であるハイトーンボイスを出すときの表情が「痛みに苦しむ」まるで腎臓結石の発作のように見えるというのが由来です。彼女の中国ファンたちは、ユニークなセンスを持っているようですね。



(中国エンタメ情報をもっと見たい方は<http://japanese.cri.cn/ent>をご覧ください)

## 独占インタビュー！岩井俊二監督に聞く

■朱丹陽

岩井俊二監督作品『Love Letter(中国題:情書)』が中国で上映されたのは1990年代末のこと。同作は今日でも広く愛され、中国の多くの映画ファンが好きな監督として同氏の名前を挙げます。

去る2017年12月6日、CRI日本語部の朱丹陽アナが岩井氏を独占取材し、全3回の映像として配信しました。その抜粋をお届けします。



### 岩井俊二さん

1963年1月生まれ、宮城県仙台市出身。日本の映画監督・映像作家・脚本家・音楽家。1987年、横浜国立大学教育学部美術学科卒。1995年に初の長編映画『Love Letter』を監督し日中韓で好評を博す。中国では『四月物語(中国題同じ)』『スワロウテイル(中国題:燕尾蝶)』や、リメイク版アニメが中国でヒットを記録したテレビドラマ『打ち上げ花火、下から見るか? 横から見るか? (中国題:煙火)』のほか、2012年のチャリティーソング「花は咲く」の作詞などでよく知られる。現在、初の中国映画《你好, 之华》を制作中。

### 「Love Letter現象」を噂でしか知 らなかったという幸運

——快くインタビューをお受け頂き、ありがとうございます。今回は『Love Letter』について特にお伺いします。まず、同作の海外でのヒットについて、当時のお気持ちをお聞かせください。

次作『スワロウテイル』の準備でアジア各国を見て回っていた頃に、香港や台湾、マレーシアなどで小規模に上映されたことを知りました。さらにその半年から1年後に、韓国でも中国大陸でも人気が出ているという噂を耳にしました。特に、韓国に行った時には集まったファンの数に非常に驚きました。それまでは、この「Love Letter現象」を実際に目にするのではなく、もったいなかったとも思いますが、逆にただの噂話と捉えていたことで、落ち着いた制作スタイルで作品を作り続けていられたことは幸

運だったとも思っています。

——岩井監督の映画づくりについて教えてください。

物語を作るというのは将棋とか囲碁に近いかもしれません。どの差し手で行くかという棋譜を完成するために、2年ぐらいかかります。

毎日シミュレーションして、何万手と打ち続ける中から「見たことがない」「発明だ」というものを選び出していくわけです。それには1週間から2週間、場合によっては1カ月かけますし、まったく浮かばない日もありますが、自分を鼓舞しながら続けます。

また、過去10年ぐらいの映画、小説、漫画、ドラマなどの作品を参考にするのはまずいです。なので、基本的には日常生活でも見ないようにして、アライバイ作りをしています。「あれの影響を受けたのでは?」「いえ、見てません」って

ちゃんと言えるように(笑) その代わり、昔の作品や、実際に起こった事件は参考にさせてもらっています。

### 白樺のエピソードは撮影中に生まれた

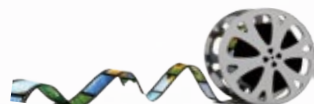
——『Love Letter』の制作における工夫やエピソードを教えてください。

『Love Letter』の制作は「手紙の物語を書きたい」というところから始まっているのですが、具体的にどういう物語にしたいかは考えませんでした。最初に内容を決めてしまうと、縛られてしまうからです。その結果、ショートフィルムの連続でできた長編のようになり、ああいふストーリーになりました。

白樺の木の話が登場しますが、あれは撮影で借りた家の主人に「いつ植えたものか」と聞いたら「娘が生まれたときに植えた」と教えてくれたので、作中



映画『スワロウテイル』より





のエピソードとして撮影中に足したのです。

—映画に限らず、様々な創作活動をする上での工夫はなんですか。

私はポンッとすごいものを出せるタイプではありません。絵も映画も小説も、人に見せられるようになるまで10年ぐらいかかっています。初めは相当ひどいものを作っていて、どうやってうまくなるのかと試行錯誤するプロセスは楽しかったですね。たとえば、センテンスを切らずにいつまでも書き続ける方法だとか、ぎごちない映像を自然につなげるテクニックとかを身につけてきました。語学も同じで、英語もまったく分からないところからやりました。中国語は次の課題ですね(笑)

## ライバルは作家たち 創作の原点は10代の頃

—創作活動のライバルはいますか。

どちらかというと映画監督よりも、物語を作る作家の方が、良きライバルであり、共感者でもあると思っています。そういう人たちの話は刺激になり、勉強になるので、よく一緒に飲みに行きますよ。質問をするのもっぱら私ですね。特に、漫画家の方々はすごいペースで物語を作るので、その方法を聞いたりしています。

—岩井監督の創作の原点はどこにあるのでしょうか。

根っこにあるのは、10代の時に感じたことです。感受性が受け止めた「何か」をどう表現すべきかと、悶々とした10代でした。その「何か」は学校の行き帰りに突然やってきて、涙が出そうになることが何度もありました。先に小説で、次に映画、最終的に音楽とやってきて、一つの形になったのはごく最近のことです。どのジャンルも技術が必要なので、その習得はいまだに続いています。そうやって(創作全般を通して)自分の表現を探求しているので、映画はこのペースでしか作れないだろうと思います。『Love Letter』のヒットから20年以上経っても、まだ映画を、しかも自分のオリジナル作品を作れていることを非常に幸運に思っています。

実は、作る側からすると、本当は自分の作ったものを世の中に公開したくないという気持ちもあるんですよね。作った仲間と満足して終わるのが一番幸福だとも思っているんです。



### ■ 朱丹陽

チチハル生まれ、丹東育ち。1987年北京師範大学日本語科を卒業後、北京科技大学で日本語の教師担当。1994～97年までの愛媛大学服装科や東京文化学院服装科での留学を経て、1999年にCRI入局。2013年まで主に中国語講座を担当。2013～15年まで、長野日中友好協会・CRI孔子学堂に赴任した。現在、主にニュースのアナウンスや翻訳などを担当。



## 54年前の中国の旅 ～リスナー・米山惇さんからの手紙～

※この記事はCRI日本語放送OBの李順然より、親愛なるリスナーの一人である米山氏の回復を願って寄せられたものです。

去年のことだ。1950年代からの北京放送のリスナーである米山惇さんから突然電話があった。「脳梗塞」で倒れ、動けないというのだ。

去年の春に入って、米山さんから『介護付き老人住宅』に入り、リハビリを続けている。いまも右手右足は動かず、車椅子生活。唯一の楽しみはパソコンに向かうことだが、左指一本でキーボードを打っており、A4一枚書くのに3日かかる」というお手紙をいただいた。この左指一本の苦心作第一号は「北京放送を聞く会訪中団の思い出」というタイトルの、A4用紙2枚にびっしりの力作。54年前の43日にわたる訪中団の旅、わたしも北京でその接待に当たった一人だが、読んでいて訪中団10人一人一人の顔が頭に浮かび、懐かしく涙が出た。

米山さんの力作でも触れているが、訪中団の通訳を務めたのは唐家璇、徐敦信両氏だ。のちに唐氏は駐日公使、外交部副・正部長、国務委員、中日友好協会会長など、徐氏は駐日大使、外交部副部長、全国人民代表大会外事委員会副主任などを歴任している。訪中団の全日程のお供をした徐氏に米山さんの近況を伝え、「焦らずにゆっくりリハビリに専心して、一日も早く右手・右足も解放してください」という伝言をいただいたので、ここに記しておく。54年前の唐、徐両氏は紅顔の美青年、北京放送日本語組に研修に来ていたのだ。



北京放送での研修時代の唐家璇氏（左3）徐敦信氏（左）  
（CRI創立60周年記念冊子『広播物語』40頁より）

以下、この力作から幾段かを抜き書きして、54年前の友情にタイムスリップしてみよう。その前に、米山さんのプロフィールを簡単に。

米山惇さんは東京のごくごく普通の実直なタクシーの運転手さん、今年86歳。ちょっと変わっているのは1950年代からタ

クシーのなかにトランジスタラジオを持ち込み、運転しながらお客さんに北京放送を紹介していたことだ。これがなかなか好評で、その仲間の島田政雄さん、米村芳子（島田夫人）さん、神田幸子さん、佐藤峰男さんらと誘いあって、あちこちの職場や労働組合、地域に「北京放送を聞く会」を作っていく。

米山さんは76歳までタクシーの運転手一筋、76歳からは自転車に乗り換えて日中友好を訴え毎日駆けまわっていた。こうした米山さんを突如直撃したのが「脳梗塞」だったのだ。



中華人民共和国成立60周年を祝って  
北京に来た米山惇氏（左）と李順然夫妻



■李順然（り・じゅんぜん）

中国国際放送局日本語部に50年勤続したOB。趣味は本、雑誌、新聞などの「雑覧」。



米山氏の手紙より抜粋

# 北京放送を聞く会訪中団の思い出

1964年東京オリンピック閉会の直後、11月7日から12月20日までの43日間、中国国際放送局の招待を受けて私たち「北京放送を聞く会」訪中団一行10名は羽田空港から香港に向けて日本航空機で飛び立った。

11月8日早朝、香港九龍駅から列車に乗り、羅湖駅で下車。中国側税関の建物の屋上には、晴れ上がった青空に真紅の五星紅旗、深センでは北京放送局から出迎えの呉克泰先生(元北京放送日本語組組長)、徐敦信先生が国境線まで来られて、一人一人と笑顔で握手され「お待ちしていました」と挨拶されたのをいまも忘れることができない。

深センから列車で広州へ、広州を参観した翌朝、広州空港から朝7時頃のプロペラ機に乗り込み、途中、長沙で昼食を、鄭州で夕食を済ませ北京空港着は14時間後の21時過ぎ。空港には北京放送局幹部の皆さん、中日友好協会幹部、北京公路運輸工会の方が夜遅いにも関わらず出迎えて下さった。

宿舎は「民族飯店」。翌日、北京放送局を表敬訪問、日本語組総出の大歓迎。アナウンサー室、日本からのお便り室、等々を見学。歌の交換会では日本人・八木さん(元日本語部日本人専門家)の「十日町音頭」、我々も「ソーラン節」等々を披露。最後に全員で「団結こそ力」「東京～北京」の大合唱で皆さんとお別れ。また、パン、ゆで卵、ハム、牛乳などの弁当持参で「万里の長城」「十三陵ダム」見学、人民大会堂での史詩劇『東方紅』の観劇等々。当時、北京放送局で日本語を研修していた唐家璇先生も北京市内の案内をしてくれた。

上海では、魯迅公園に、魯迅先生をはじめ多くの知識人と親交があった内山完造初代日中理事長の墓参り等々…。西安では長安の都、大雁塔、楊貴妃が入浴した華清池、碑林などの参観。さらには革命の聖地・延安、山をくり抜いた窯洞(ヤオドン)の日本労農学校、宝塔などの参観。翌日、雪がふり飛行機が飛ばず、急きょバスに切り替え延安を後にした。当時新車のバスだが暖房が無い。一行は、1時間毎にバスから降りて運動をしては暖をとる再びバスに乗った。その夜は黄陵の招待所に泊まった。朝食後またバスに乗り、銅川へ。銅川からは列車で西安に戻った。西安空港の食堂で昼食を済ませた時、代表団で最高齢の石田老が立ち、「バスから降りて運動をしていた際、足を滑らせて溝におちて片足が濡れてしまった。それに気付いた西安放送局の楊先生が、バスの中で私の隣に座り、濡れた足をお腹に入れ温めてくれた。お陰で風邪も引かずここまで来れた」と涙ながらに話したことを覚えている。

一行が撫順へ向かった際は、私だけが瀋陽放送局の配慮で生まれ故郷の鉄嶺市へ。夢の様な一日であった。旅の終わりに風光明媚な從化温泉に2泊して、帰国の途についた。

人生の大きな転機となった「北京放送を聞く会」訪中団の43日を、一生忘れることができない。

2018年2月1日 米山 惇



1960年代聞く会あれこれ  
—新聞『日本と中国』から—



日本人スタッフの  
**つぶやき**  
 在中日本人の生活日記  
 ■星 和明

**大学生  
 日本語プレゼン大会**

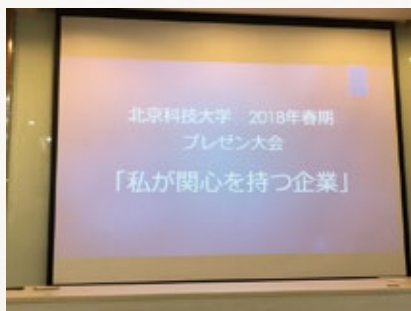
日本人スタッフの星和明です。中国に来てから日本語を学ぶ大学生、日本語教師の先生とお会いする機会がよくあります。私自身も日本人アナウンサーとして、大学で教鞭を執る機会を頂くこともしばしばです。

そんなご縁もあって、このたびは北京科技大学日本語学科プレゼン大会の審査員を務めてきました。



今回の大会は日本語学科3年生のプレゼン実習の一環で行われました。つまり、ほとんどが日本語をゼロから学び始めて3年ほどという学生による発表です。事前の予選を勝ち抜いて本戦に進んだのは11人。どの学生も流暢な日本語、工夫を凝らしたプレゼンで、日頃の学習成果、プレゼンに向けた練習量を感じる、あつという間の時間でした。

今回の発表内容は「私に関心を持つ企業」。



学生自身が興味のある企業を選んで、業務内容や魅力についてプレゼンしました。日本、中国を問わず、大手からベンチャーまで登場。中国企業では、中国式おでん「麻辣燙」チェーン、インターネット企業、教育ベンチャーなどがあり、日本企業では、出版、物流、メーカー、小売業など多種多様な業種を紹介してくれました。

中国では、世代を表わす言葉として、1980年代生まれなら「80後」、90年代なら「90後」という表現が使われます。そして、今回の主役の学生たちは「95後」で、まさに今の若者たちの職業観を知ることができました。



発表を聞いた私の印象では、社会的影響力、社会貢献性、また、社員食堂や社内コミュニケーション環境などの福利厚生を重視する傾向にあるように感じました。そして、会社の理念に共感できるかどうか大事な要素のようです。ネームバリューよりも自分に基準を置いた「働きがい」、「働きやすさ」に注目している様子が垣間見られました。

今回のように就職活動が本格化する前に、日本語という外国語を使って企業研究することで、社会、世界に対しての視野も広がり、働くことへの選択肢や考えがより深まっていくのではないかと思います。

大学生たちの物怖じしない、未来に向かう力強さを感じることができた一日でした。もちろん、審査員とプレゼンターの務めもしっかりと果たしてきましたよ。





## 中日交流カフェ

### ようこそCRIへ!

### 二人の日本人留学生、番組出演でCRIとの初めての出会い



▲張怡康アナと記念撮影する  
藤田明日香さん(左)と大石真央さん(右)

6月某日、二人の若者がCRIを訪れました。同志社大学から北京大学へ留学中の大石真央さんと藤田明日香さんです。

今回の主な目的は、講座番組「47都道府県で実践!中国語」への出演です。月替わりで日本の都道府県を1つ取り上げ、その魅力を中国語で伝えることをテーマにしている同講座。その中の、地元出身者の生の声を聞くミニコーナーに、京都出身の大石さんと、三重出身の藤田さんが登場してくれました。

7月の帰国を間近に控えながら、それまでCRIの放送を知らなかったというお二人でしたが、今回の収録体験と放送局見学を機に大石さんは「周りにもCRIの番組をオススメしたい」、藤田さんは「日本に帰ってからはCRIの番組を通して中国とつながりたい」と話してくれました。

そんな2人の“地元のオススメ”が聞ける「47都道府県で実践!中国語」の京都編は、Podcastで今すぐお聴きいただけます。対応アプリから「CRI中国語」で検索してくださいね。三重編も年内に放送予定です。どうぞお楽しみに!



▲Podcastではこのアイコンが目印です

## 工学院大学孔子学院より～その4「音楽で東と西を結ぶ」

■工学院大学孔子学院・高橋恵子院長

春4月、日本では新学期がスタートし、初心者マークがとれて学院長も2年生になりました。加えて私達学院の設立10周年、日中友好平和条約締結40周年という記念すべき年でもあります。新年度最初のイベントは「楊琴と膝琴(ヴァイオラ・ダ・ガンバ)の音楽物語～中央アジアから東と西へ～」。楊琴と膝琴は共に中央アジアに生まれ、東に行ったものは楊琴として、西に行ったものは膝琴として発展しました。源が同じで、それぞれの地で発展したもの…CRIの書画展「和して同ぜず」を思い出しました。漢字や書法も中国で生まれ、今や日本をはじめ各地でそれぞれの形で発展しています。仲良しだけど、1つに統合しない。これだ!とひらめき2つの楽器のコラボ音楽会を企画したところ、多くの人が聞きに来てくれました。おかげさまで楽器の歴史や形などの紹介を交えたレクチャー音楽会は、優雅で知的な雰囲気学院の10周年の年の幕開きに相応しいものになりました。そして、このコンサートには、もう1つ、平和友好条約40周年の冠が付いています。「平和友好」は重要なキーワードではありますが、音楽会の前や途中に語るのはちょっと場違いかなと思い、プログラムの裏面に

条約の全文を載せてみました。改めて読んでみると先人の思いが強く伝わります。これからも日本と中国、そして世界中が仲良く平和でいられるよう微力ながら頑張ろうと誓いを新たにしました。



■新語で知る中国事情

# キーワードチャイナ

■謝東



## 【编制】(biānzhì) [名]正式雇用枠

国の予算で賄う範囲の人々の採用枠のこと。①広義の「编制」は各種機関の部門設置基準、ならびにその定員、部門構造と職務や職権の割り当てを指す。②狭義の「编制」は、主として政府事業セクターの「正規雇用採用枠」を指す。国家組織の機能を成り立たせるために、政府やその関連機関や関連部門のほか、特に国家予算で事業を運営する団体、組織、部門、部署内部の定員、構成比率及びポストの枠を指している。公務員の人事部門による正式な雇用手続きがなされている人は、「編内(编制内)」あるいは「在编人员(编制に組み込まれている人)」と呼ばれる。彼らの俸給は国や地方の財政で賄われ、保険制度や雇用の面でアドバンテージを持つ。それ以外の被雇用者は「編外(编制外)」あるいは「非在编人员(编制に組み込まれていない人)」と呼ばれ、俸給も国や地方の予算からではなく雇用先から直接支払われる。



## 【品质革命】(pǐnzhì gé mìng) [固]品質革命

今年の全人代で李克強首相が行った、『政府活動報告』の中で使われた言葉。初出は2016年5月11日付けの国务院常务会议の報道原稿。アナリストの解説によれば、①プロダクト文化の革命、②品質イノベーション意識の革命、③品質向上に向けた研究の革命、④QC制度における革命、とのことである。現在、中国は名実共に、消耗品の製造・消費・輸出の大国になっているが、「製造強国」とは程遠いもので、消耗品の供給も不足し、製品ラインやその品質、ブランディングなどの面で先進国に及ばない。その一方、拡大する中産階級の視点が、単に「ものがあること」から「優れたものを保有すること」に移り、国産品では満足できない状態になっている。そこで、国産品の「種類はあるが信頼度が追いつかない」状況を改善しようと提起されたのがこの革命である。



## 【旅行青蛙】(lǚ xíng qīng wā) [固]旅かえる(ゲームアプリ名)

日本発のスマホゲームの中国語タイトル。日本のヒットポイント社が開発した「放置系ゲーム」の一種だが、日本のメディアの統計では、中国のアップルストアからのダウンロード数が96%を占め、日本はわずか2%程度とのことである。インターフェイスがすべて日本語という、中国のローカルユーザーにはとても「痛い」設定にも関わらず大受けしており、オフィシャルでない中国語版まで生まれている。



## 【小长假】(xiǎo cháng jià) [名]ミニ連休

「小长假」は三連休のこと。中国では、大型連休のほか新年、清明節、メーデー、端午の節句、中秋節がそれぞれ祝日であり、いずれも土日を調整して3連休としている。このために暦によっては土日が出勤日によって営業日が6~7日続くこともあり、不満の声も上がっている。





# リスナーからのお便り

非常感謝  
您的来信!

「かけはし」や番組へのご意見・ご感想をEメール、お便り、SNSなどでお寄せ下さい!

E-Mail: riyubusns@126.com

郵便(日本): 〒152-8691

目黒郵便局 私書箱78号 宛

郵便(中国): 100040

中国国際放送局日本語部 宛

## 番組の感想

### ■李克強総理の初訪日と中日韓サミットについて

#### ■東京都西多摩郡 小野崇夫さん

松野氏(編注:CRIインタビュー5月ゲスト・松野豊さん)のお話にもありましたが、長い付き合いには良い面ばかりではありません。思いを伝えあうことが重要です。一連の出来事が、腹を割って話せる信頼関係を築く一歩になることを望んでいます。

### ■番組名:今昔物語

#### ■神奈川県川崎市 及川三晶さん

無錫の国際花見ウィークの話題でした。これまで30年以上、地道に桜の木を育ててきたことが実を結び、中日の友好ばかりでなく国際的な友好にまで拡がりを見せているとのこと、花が持つ魅力の素晴らしさと、その影響力に感銘を受けました。桜の木を大事にされてきた中国の方々への敬意の念も止みません。

### ■番組名:中国の旅デラックス

#### ■三重県津市 川添充則さん

北京にある有名餃子店の特徴や人気メニューなどが紹介されて、お店選びの参考になりました。どのお店も魅力があって迷いそうです。中国各地の餃子を食べられるというのは、首都ならではのメリットだと感じました。また、餃子のバリエーションの多さに興味を持ちました。

### ■番組名:ライフマガジン

#### ■東京都西多摩郡 小野崇夫さん

故宮博物院へ行ってみたいになりました。収蔵品の充実ぶりと、数の多さが伝わってきました。また、グッズの収益を子供向けの教育に用いる、この考えには納得です。私は博物館が好きで、年に何回か出かけますが、企画面で色々な努力があるのだとわかります。

### ■番組名:中国メロディー

#### ■三重県名張市 竹内達生さん

藤の花に関する短歌と音楽の紹介でした。若い頃とは違い、最近は山に咲く花から季節を感じることが好きになってきて、まさに今のこの時期、通勤途中などに道沿いの森林に自生する藤の花を見ることが日々の生活の中で楽しみになっています。華やかさの一方で凛とした美しさもあり、5月の連休前後によく目にする印象ですね。

### ■番組名:中日交流カフェ

#### ■愛知県清須市 鈴木英夫さん

「交流広場」のコーナーで紹介された、上海師範大学の陳露文さんの作文は、日中の文化の違いに触れた、とても良い内容でした。日本で中国人観光客が場所を問わず大声で話しているのは目にしますが、お互いに文化の違いを理解していければと感じました。

## 編者後記

初めに、前号から今号の発行まで、期間が空いてしまったことをお詫びします。この期間に、世界にも中日両国にもCRIにも、様々なできごとがありました。

まずは上半期で最も注目された3月の両会議と4月のボアオ・アジアフォーラムです。また、5月には李克強総理による訪日があり、両国関係の大きな進展として評価されました。

一方で、私たちCRIと日本との関係を語る上で欠かせないのが桜の花です。今年も皆さんと春を分かち合ったさくら便りを掲載しています。私たちがCRIの庭に植えられた桜の木を見るたびに思うのが、リスナーの方々への感謝です。今号には、私が入局するずっと前から北京放送を聞いてくださっている方のお名前や、大切な思い出のお手紙を載せています。

かつての北京放送はCRI日本語放送の時代を経て、新たに組織された中央廣播電視総台に組み込まれ、新たなスタートを切りました。それでも変わらないのが、日本のリスナーや読者の皆さんとの絆です。次の成長と発展へと向かう私たちと、『かけはし』をこれからもどうぞよろしくお願いいたします。(趙雲莎)

## カラフルな北京を探検！ 北京セルフィー日記2018

大好評配信中のミニ映像番組シリーズ「北京セルフィー日記2018」では、自撮り棒とアクションカメラによる「セルフィー視点」に、高画質カメラの「客観視点」を加えて、2つの視点から北京の魅力をご紹介します。

主に張怡康アナの案内により、日本人スタッフの梅田謙が北京のあらゆる場所を探検、そして体験。時にはちょっと大変な目に遭うことも…？

第一回の「氷祭りは湖の上！北京の冬の遊び方（1月）」にスタートし、「成年到来！北京の料理教室でパンづくり（2月）」「まもなく開通！新空港線建設現場に潜入（6月）」などなど、毎月1回更新中！面白い内容をどんどんお届けしていきますので、ぜひご覧くださいね。カラフルな北京ライフに、フォーカスオン！



### リポーター 張怡康

「北京セルフィー日記」の一年越しのカムバックです。またお目にかかりましたね！張怡康です。2018年の日記はちょっぴり“いじわる”要素も。毎回、梅田さんに目隠しをして西へ東へと連れまわします！でも、最後には北京の魅力をたっぷり感じてもらっていますよ（たぶん）。私たちの目とレンズを通して、中国の面白さをお届けします！

### リポーター 梅田 謙

日本人スタッフの梅田謙です。張さんに引っ張られて色々なところを訪れます。番組に登場する場所・イベントのほとんどは、誰でも体験できるものです。北京での遊びの参考にしてもらえると嬉しいです。「普通は体験できないこと」を取り上げる回では、皆さんにしっかりと驚きをお伝えできるよう頑張りますので、ぜひどちらもお楽しみください。

### カメラマン 劉睿

中国の首都・北京で行われるイベントや面白い出来事、さらには日常的な生活の一面も含めて、映像で取り上げます。今回の番組は、企画だけではなく、映像面でもこだわっています。ありのままの映像をリアルに伝えるため、画角や撮り方も一工夫していますので、ぜひその点も楽しんでください。

☆Webサイト CRI公式サイト「北京セルフィー日記」コーナーへお進みください。

URLはこちら→<http://japanese.cri.cn/video/zgyhqb>

☆SNS : Facebook/Twitter公式アカウント「CRI日本語」

新浪ウェイボー・微信(WeChat)公式アカウント「CRI日语频道」でも随時更新中。



## 番組リニューアルのお知らせ

ハイウェイ北京木曜日1時間目が6月から新体制になりました！劉叡アナと日本人スタッフの梅田謙、星和明の男3人という組み合わせで、3つのコーナーをお送りします。



第1・第3木曜日は

【ラウンジトーク～三人行～】

空港のラウンジに集う3人がそれぞれ興味のあるニュースを持ち寄り、中国について思いの丈を語り尽くします。国籍、出身、年齢の異なる三者三様のクロストークをお楽しみください！

星：一回目の放送は「高級スポーツカーブランドが中国で大幅値下げ」「合肥が誇る最先端の音声認識技術」「蘭州ラーメンが日本上陸」の3本。自分が思いも寄らないジャンルのニュースが出て来ますし、誰がどれを選んだのかも聴きどころの一つだと思いますよ。



第2・第4木曜日は2本立て！

【Beijing Hour～北京アワー～】

北京の最新情報や中国で話題になっていることなどを、ゆるりとお伝えするコーナー。こちらは入社8年目の劉叡アナと北京歴3年目の星和明アナのコンビでお届けします。大きなニュースにならない話題や、もっと掘り下げたい身近なことなど、今の中国のありのままの姿について自由気ままに話します。

劉：「ありのまま」と「自由気ままに」が特徴のコーナーです。今の中国で起きている出来事や社会の話題、そして若者文化などを、特に「若さ」と「今」をキーワードにお伝えてしていきます。



【Dr.劉のお悩み相談室】

水曜日の不定期コーナー「Dr.劉のお悩み相談室」がお引っ越し。その上、隔週放送に！Dr.劉とアシスタントの梅田謙が、今を生きる中日若者の悩み相談に対して意見やアドバイスを提供していきます。急成長を遂げていく中国、そのような社会背景で日々生活をする若者たち、いったいどのような悩みを抱えているのでしょうか。

梅田：中国の若者からも日本の若者からも、予想外の悩みが飛び出しますよ。また、Dr.劉と私は実は同い年！なので、年齢も性別も同じ、ただ国籍だけが違う私たち2人のアドバイスを比べてみるのも面白いかもしれません。



CRI日本語放送のアプリが絶賛配信中！いつでもどこでも、最新の中国情報をいつでもどこでも手軽にチェックできます。ニュースや写真に音声番組、映像番組も簡単に視聴可能。中国語の勉強に特化したラジオ番組や中国社会やバラエティー、観光、留学などに役立つ生の情報が盛り沢山です。さらに、北京の気になる観光スポットを360°写真で見渡す機能も！「CRI日本語」アプリでリアルな中国を体感して下さい。

App StoreまたはGoogle Play Storeで「CRI日本語」で検索！

または、本誌裏表紙のQRコードからもアクセスできます。





■ SNSで観るCRI (各SNSプラットフォーム)



@CRI日语频道



CRI日语频道



CRI日语部



CRI日本語



@CRIJpn



YouTubeアカウント  
CRI日本語



CRIの人気番組をPodcastでも配信中!

iTunesや対応アプリから「CRI」で検索。

配信番組: CRIニュース、ハイウェイ北京、中国語講座 ほか

CRI日本語放送のアプリがついに配信開始! いつでもどこでも、最新の中国情報を手軽にチェックできます。ニュースや写真に音声番組、映像番組も簡単に視聴可能。さらに、北京の気になる観光スポットを360°写真で見渡す機能も! 「CRI日本語」アプリでリアルな中国を体感して下さい。



App StoreまたはGoogle Play Storeで「CRI日本語」で検索!  
または、左にあるQRコードからもアクセスできます。